

いま光を放つ図書館学の五法則

2012年11月11日(日) 15:30~18:00
2012年度中堅職員ステップアップ研修(1)領域3
日本図書館協会研修室において

竹内 哲
(たけうち、さとる)

0 今日のタイトルとその進め方

- 「いま、光を放つ」ということ：なぜ「光」というのだろうか？
- その状態に対する日本図書館協会の準備：遅くも2000年ごろから。
- 図書館を深く考えるための手がかりとしての「五法則」
その長所と、われわれの陥りやすい誤解。
- 今日の進め方
 - 3:30~4:30 p.m.: 図書館に光をもたらそうとして努力した人々
 - 4:45~5:45 p.m.: 五法則の理解のために
 - 5:45~6:00 p.m.: 質疑または意見

1 図書館に光をもたらそうとして努力した人々：デューイ、ランガナタン、加藤宗厚 別紙の表1を参照

2 「五法則」の理解のために

2-1 『五法則』の基礎

ランガナタンの教育観 『歩む道』 pp.45~46

ひとりの人の、そしてみんなの成熟と成長とのために図書館がある。

その成熟と成長とをする人が集まって社会を作り、その結果を持ち寄り、まとめ、分け合って、社会の進歩がある。これはその図書館を設置する母体にとって、大きな見返りである。

それには時間を要する。将来の大きい見返りのために、今の図書館を維持する経費を公費から十分に支出すべきである。図書館は無料 図書館の大憲章

2-2 五法則を貫くもの 図1参照

五法則の基盤：第0法則(私見)「すべての人に教育を」 人はすべて、教育を受ける権利と、その教育を生かす能力とを持っている。

五法則の一つ：図書館の三要素と、それを支えるさまざまな要件(表2参照)の複合体である。

五法則自身の成熟と成長：五法則自身が、それを理解しようとする人の中で豊かになり、さまざまな適用の可能性が生まれ、五法則の解釈が多様になって行く。

2-3 各法則の特徴

第一法則：全体の総論であり、保存中心からの脱却を示すもの。保存に新しい価値。

第二法則：第一法則の「利用」はだれのため？という問いかけを受ける。

第三法則：本（図書館資料の一つ一つが、読者ひとりと同様に、生命を持ち、働きをもつものとして考えられている。それが一番働きやすいようにするのが図書館員の仕事。

第四法則：利用者から見た図書館の理想像。ただ短時間で処理せよというのではない。ここまでが一館内での「かくあるべし」という規範原則。

第五法則：一館内の仕事から社会的存在としての図書館を規定。社会的生物としての図書館のあり方を示す。

2-4 各法則の理解のために

各法則（第0法則〔私見〕を含む。第五法則を除く）は、聡明な女性として描かれている。資料と同様、法則自体も人間化されている。

資料も読者も、一人の人間として扱われている。この五法則を「ひとりの人間にとって図書館とは何か、どういう原則に基づいて動いているのか」という観点から読み解くことが理解を助けるであろう。

各法則について一応の理解を得た後で、これを回転する正五角形と考えてもよい。つまり考え方の上では、どの法則から出発してもよいのである。

2-5 五法則のスパイラル (『188の視点』p.113)

この五法則は、一回転すればそれで終わりというものではない。第一から第五までの法則を実現しようと努力して、成果を得た後に、その上に立って、第二のスパイラルの第一法則の実現に努力する。そして次のスパイラルに至る。この回転は無限であり、五法則は常にそのスパイラルの指標となる。

3 これから五法則の理解を深めようとする人のために

3-1 『歩む道』は、いわば山登りのガイドであって、正確な地図ではない。原著、或いはその完訳版を読むときの手引である。

3-2 まずランガナタンその人についての紹介の部分と、各章の初めにおいたその章の解説（小さめの文字で組んだ部分）がガイドの役をするであろう。

3-3 『歩む道』を読むうちに生まれた疑問に答えようとするのが『188の視点』である。

3-4 この2冊にとどまらず、完訳版から原著に進まれることを期待する。

補足：レポートや論文を書く場合、どうぞ Writing is re-writing を実行してください。書き直すたびに良くなるはずですが、また、その場合に生じる迷いによって新しい道が見つかります。この研修は、図書館員全体の能力の向上と利用者からの信頼とに関わります。皆様のご努力に期待する所以です。